「論理的思考力」育成のための「6＋1」の観点

■ 「6+1」の観点 及び 目標の事例

「6＋1」の観点		目標の事例
① 規則、定義、条件等の適用	⑦思考の過程や結論の適切な表現	資料から読み取ることができる規則や定義等を理解し、それを具体的に適用することができる。
② 必要な情報の抽出・分析		多くの資料や条件から推論に必要な情報を抽出し、それに基づいて分析することができる。
③ 趣旨や主張の把握・評価		資料は全体としてどのような内容を述べているのかを的確にとらえ、それについて評価することができる。
④ 事象の関係性についての洞察		資料に提示されている事象が、論理的にどのような関係にあるのかを見極めることができる。
⑤ 仮説・検証		前提となる資料から仮説を立て、他の資料などを用いて仮説を検証することができる。
⑥ 議論や論証の構造の判断		議論や論争の論点・争点について、前提となる暗黙の了解や根拠、また、推論の構造などを明らかにするとともに、その適否を判断することができる。

「6+1」観点とは・・・

「6＋1」の観点は、文部科学省 国立教育政策研究所が実施した「特定の課題に関する調査（論理的な思考）」で用いられた、論理的思考に必要な6つの思考のプロセスに、「思考の過程や結論の適切な表現」を加えたものです。

この「特定の課題に関する調査（論理的な思考）」は、グローバル化の進展や思考力・判断力・表現力を育むことがますます重要になったことを受け、高校生の論理的思考力について把握することを目的に実施された調査です。

この調査に基づいて作成した「6＋1」の観点は、大学入試センター試験に変わる新テストにおける問題の評価のたたき台として中教審で取り上げられたものでもあります。

以上のことから、**「論理的思考力」問題を対策するための、手段の一つが、「6＋1」の観点**と言えます。

ここ数年来、大学においても、これからの時代に対応できる人材として、「論理的思考力」を持った人材が強く求められています。
それに伴い、この「6＋1」の観点に基づいた問題がたくさん出題されるようになっています。

つまり、言い換えると、**「6＋1」の観点に基づいて解答できるようになることが、**
受験に向けての、**一つの「到達点」**と言え、
これまでに**合格した全国の受験生は、これらの力をマスターしている**と言えます。